

〈研究ノート〉

マスコミの「学校バッシング」における
「教育言説」の批判的検討 (3)
— 朝日新聞の「愛知県西尾市中学生いじめ自殺事件」を
手掛かりに —

**A Critical Review on “Educational Discourse” in the
Media’s “School Bashing”:**
Using the Asahi Shimbun’s “Junior High School Student Bullying
Suicide Incident in Nishio City, Aichi Prefecture Case” Article as

西 尾 理

NISHIO Osamu

1. 概要

1994年(平成6年)11月27日に愛知県西尾市で男子中学生がいじめを原因に自殺したことで発覚した事件。1994年11月27日、西尾市立東部中学校の2年生の男子生徒(以下、O君とする)が、自宅裏の柿の木で首を吊って死んでいるのを母親に発見された。葬儀後、自室の机から「いじめられてお金をとられた」という内容の遺書が見つかった。同年12月2日、O君が助けを求める信号を発していたにもかかわらず学校側などがいじめと気づかず、適切な措置をとっていなかったことが明らかとなった。西尾市教育委員会による調査の結果、同級生11人がいじめに関わっていることが判明し、主犯格の4人が恐喝容疑で書類送検された。4人は小学6年生の頃からO君にたびたび暴行を加え、金を要求していたことを認めた。被害者から脅し取った金額は少なくとも110万円とされる⁽¹⁾。

2. 方法

朝日新聞の記事データベースで、事件が起きた翌日の1994年12月2日から2019年1月1日までの357件の記事を対象とする⁽²⁾。

3. 事件の経過説明の記事

事実経過の記事は、1994年12月2日と3日の2件(自殺の中2、いじめ苦の遺書「金もとられた」(愛知、1994年12月2日(夕))、11人の生徒が関与 愛知の中2自殺 取った金で「遊ぶ」(1994年12月3日(朝))で、それ以降は、原因究明の記事となっていく。

4. 「言説」の特徴

圧倒的に多かったのは、学校の責任を問う記事であった。筆者の調査の限り、端的に学校の責任と掲載した記事は、61件である。その他、学校に責任があるとする原因については、以下の通りである。

(1) 教師の責任

教師の責任の原因を論じた「言説」は、以下の表1の通りである。

表1

生徒へのいじめのサインの見逃し37	教師と生徒に信頼関係なし14
学校に意志がない11	担任の責任10
教師が生徒の方を向いてくれなかった7	成績だけ見ている7
教師に情熱がない5	教師と生徒のコミュニケーション不足5
学校と両親の面会非公開3	学校への質問状2
親が教師に成績等が握られているので言えない2	教師の思い上がり2
教師が対策をやってくれない1	教師社会のあり方批判1
教師が対策をやってくれないから授業もわからない1	教師のかたくなさ1

この中で、圧倒的に多いのは、生徒へのいじめのサインの見逃しである。その典型が以下の記事である。

今回もまた悔やまれるのは、清輝君が発していた助けを求めるサインを見逃してしまったことだ。清輝君と少年たちの世界は周りの大人たちの目にはすぐには見えなかった。だが、家の金を持ち出したのも、顔にあざをつくったのも、壊された自転車を夜中に一人で直していたことも、それぞれがSOSのサインだったのであろう。

学校側は異常に気づいていた。「精神不安定のようなだから、カウンセリングを受けたら」と父親に告げている。いじめをした少年たちもたばこを吸ったり、家出したり、清輝君からまき上げた金でゲームセンターやカラオケを遊び歩いたりして、あちこちで「注意信号」を発していた。

大人たちがサインをサインとして受け止めることができなかつたのはなぜか。教師と子どもとの信頼関係、子ども同士の仲間意識のなさ、教師集団の事なかれの風潮、父母との連携不足など、いつもながらの指摘が繰り返されるようでは情けない（この「遺書」を無駄にするな（社説）（1994年12月4日（朝））。

しかし教師や学校にとって、この社説にあるように全ての生徒のサインに気付くことができるのであろうか。中学校は、教科担任制であること、生徒数も多いこと、中学校の教員は、メインの授業とともに他の業務にも追われていること、学校内ならともかく学校外の出来事までも察知することが完璧にできているのであろうか。優秀な朝日新聞の記者ならばできるのかもしれないが。まして小学校6年の頃からいじめが始まったという（「大河内君の遺書（1994年12月3日（朝））」。端緒も当該中学校ではなく、小学校からである。また、教師がアザや壊された自転車を目撃して、いじめではないかと問いただし、父親が「いじめじゃないのか。脅されて、金を取られているんじゃない

か」と問いただしたところ「そんなことはない」と否定し続けたという（「心明かさず最後の10日」1994年12月6日（朝））。さらに、当該者がいじめのグループに属していたため、いじめのグループの一員として捉えていた。グループから離れるよう指導したが、「仲間」といって楽しい。抜けたくない」と繰り返したため、「強く踏み込むことができなかった」という⁽³⁾。

ここから判断できることは、教師たちがいじめには気づいていたが、本人が否定するのでそれほど大事だとは感じていなかったことだろう。また「強く踏み込む」とはこの場合、どうすればよかったのであろうか。いじめの加害者と関係を切ることなのか。難しい問題である。また教師がサインを見逃す理由として挙げているのは、教師が成績だけ見ていて、生徒としっかりと向き合わないからだという、いわゆる教師と生徒とのコミュニケーション不足だと考えられていることである。さらに根本的な理由が教師の努力不足、能力不足だと述べられていることである。

象徴的なのは、清輝君の担任の“懺悔の手記”とその論評である。

<手記の全文>

清輝君のご冥福を祈ります。

「清輝君……。ごめんなさい」

何度おわびをしても、許してもらえない。よくわかっています。「なぜ、清輝君のこのろの叫びがわかってあげられなかったのか。自分が情けない。自分がくやしい」

今、わたしは清輝君の元気なころのことを思い出しては、自分を責める毎日が続いています。清輝君の苦しみ、ご両親の悲しみを考えるとたまらなくなります。

今年の春、この学校へ赴任してきて私は清輝君と出会いました。私は清輝君をはじめ、清輝君の周辺の生徒たちのことがわかるようになってからは、先生たちに協力してもらって彼らのグループ化を必死になって止めようとしてきました。しかし、度々起こる問題行動の中であなたの本当の姿を見失ってしまいました。清輝君は向き合って話をすると、優しい少年でした。そのあなたがどうして問題を引き起こすグループと行動を共にしているのか、私には理解できませんでした。ただ、私にできたことは、毎日話しかけたり、近くで給食を食べたりしてあなたに少しでも近づこうとすることだけでした。しかし、それはあなたにとって救いにはならなかったのです。なぜ、もう一歩踏み込んであなたの気持ちをくみとってやれなかったのか。自分の無力さだけを今はかみしめています。

「清輝君、ほんとうにごめんなさい。安らかに眠ってください」

「残された私にできることは……今、答えは見つかりません……でも、これからの私は人の心を素直に見つめられる人でありたい……」

「清輝君、いつまでも、みんなを見守っていて下さい」

いじめを受けていたとする遺書を残して自殺した愛知県西尾市立東部中学校二年、大河内清輝君の担任の女性教師(26)が十四日、朝日新聞社の求めに応じて手記を寄せた。「自分の無力さだけを今はかみしめています」。大河内君が、いじめを受けて追い詰められていることに気づかなかったことについて、悔恨の思いがつづられ、大河内君の「本当の姿」を見失ってしまい、行動を理解できなかったことを率直に打ち明けている。

この担任教諭は、1991年3月に、愛知教育大学を卒業し、西尾市内の小学校に三年間勤務した後、今年四月に東部中学に赴任した⁽⁴⁾。

以上の手記と記事を読む限り、小学校から中学校に来て、いきなり担任を受け持ち、さぞかし戸惑いと困難を感じていたであろう。小学校と違い、教科担当としては、自分のクラス以外の生徒たちの授業も受け持つという多くの生徒を抱えながら、問題行動に対処し、問題行動のグループ化を防ごうと必死に努力していた。被害者本人にもグループから離れることを説得していた。またグループ内でのいじめも本人から否定されたらどう対処すればよかったのだろうか。保護者（親）も気付かない事を教師が気付くのだろうか。この時期、担任教諭は、登校拒否問題に取り組んでいる大学時代の恩師を頻繁に訪ね、大河内君の問題などにどう対処すればいいのか相談していたというが、これ以上、どうすればよかったのだろうか。ところが、この記事で強調したかったことは、手記の中の被害者の「本当の姿」を見て取れなかったことであり、そのことによる教師の「無力さ」なのである。

さらに、この手記は、朝日新聞社の求めに応じて書かれたものであると明記してあるにもかかわらず、翌日、次のような記事を掲載している。

「父親が、清輝君の担任教師が朝日新聞社の求めに応じて手記を同紙に寄せたことについて、「先生の気持ちはよく分かったし、感謝もしている。先生とはまだ十分間ぐらいしか話していない。せめて手紙の形ででも、私たちに先に気持ちを伝えてほしかった」と語った⁽⁵⁾」。

手記を書くよう要請したのは朝日新聞であり、そのように仕向けたのも朝日新聞であろう。保護者の気持ちを考えるならば、書かせた朝日に責任はないのだろうか。それなのに父親のこうした意見を掲載することによって、2重に担任に非難を浴びせる結果となっている。手記を書かせて“商売”をしておきながらこうした記事を掲載することに問題はないのだろうか。

(2) 学校全体とそれを取り巻く社会の責任

教師以外の学校全体とそれを取り巻く社会の責任については、以下の通りである。

大人の責任13	校長の責任（記者会見での発言を含む）6	文科省の責任6
市教委3	自治体の責任2	まわりの子どもが気付かなかった2
地域の責任1	県教委1	被害者の責任1
法務局1（対応が遅いという責任）	社会の責任1	学校と被害生徒の保護者の責任1

その他にマスコミの責任6というものもあるが、それは、校長からの2次被害への要請に即したものである。

大人の責任が13掲載で突出しているが、朝日の手法の一つで、責任の所在を曖昧にしたときに使う手法である。「教育言説」において、本来、直接的な責任の主体を追求すべきところを何らかの事情で出来ないときに「大人の責任」だとか「大人は何かできなかったらどうか」というような手法で、結論部分で使用する。

(3) 教師側からの反論

また教師の反論は、掲載数1(論評なし。)、教師の多忙さについて掲載数1、生徒が教師の指導を聞かないについて掲載数1、教えてくれなきゃわからないではないかという訴えについての掲載数1、逆に教師に救われたということについての掲載数1となっている。しかし、この反論も記事の中間部分において掲載され、結論は教師批判、学校批判で結ばれるのである⁽⁶⁾。

(4) 加害者の責任

一方、加害者の責任については、以下の通りである。

加害者の記事52(裁判の記事が多い)	加害者の責任20	親の責任19
加害者の親5	お金を分配した2	恐喝2
	加害者が口外しないように口裏合わせ1	

加害の記事とは、裁判関係を含めて事件の概要を淡々と掲載するものである。加害者の親や、お金を分配したとか恐喝、加害者が口外しないように口裏合わせも同様である。

加害者の責任やその親の責任を問うて掲載しているものは、学校の責任に比して圧倒的に少ない。いじめ自殺に追い込んだのは誰であったのかと見間違ふほどである。

典型的なのは、加害生徒の処分決定した時点での記事である。

愛知県警は、清輝君に暴行を加えたり、お金を脅し取ったりしていた同学年の少年四人を二月十日、恐喝の疑いで名古屋地検岡崎支部に書類送検。当初、脅し取った金額は百万円を超えるとされたが、恐喝の日時などが特定できないとして、同県警は計四万四千円余を脅し取った疑いで立件した。少年四人はその後、名古屋家裁岡崎支部に送致され、同支部は三月に全員の観護措置を決定、少年鑑別所に収容した(名古屋家裁の4生徒処分 大河内清輝君いじめ自殺事件【名古屋】1995年4月5日(朝))とあるが、その論評については、「問題解決へ個々の力を「いじめ」座談会【名古屋】1995年4月5日(朝)」の記事が典型である。以下、

◇深谷昌志さん 静岡大学教授(教育社会学)。著書に「孤立化する子どもたち」「無気力化する子どもたち」など。

◇山田万里子さん 弁護士。名古屋弁護士会の「子どもの権利特別委員会」委員長。

◇河村公子さん 「登校拒否・親の会 なごや」代表。登校拒否の子どもを持つ親同士で助け合おうと十二年前に発足。現在、会員約三百人。

◇山本健治さん 岡崎市立岡崎小学校教諭。

◇杉浦明永さん 豊田市立平和小学校教諭。

深谷 大河内清輝君の事件でどんなことを感じましたか。

河村 また一人の命が失われたのかと、衝撃でした。登校拒否の子どもたちは人間関係で学校に行けなくなった子が多く、「ぼくもいじめられた」というお子さんがずいぶん出てきた。登校拒否もいじめも根は同じ、と感じています。

山本 私は岡崎に勤めているので身につまされた。真剣に考えないといけないと思っているが、職場では話題にならない。

杉浦 先日、(東部中学校の校長らへの)処分が発表されたが、これだけでは問題

は解決しない。教育委員会も学校も、具体的な反省や改善のないまま幕引きしようとしています。

山田 教育委員会も、事件が報道されなくなるのを待っている、というところがあるのではないか。名古屋弁護士会としては長期的に取り組んでいかなければ、と思っています。

河村 学校がものすごく息苦しい。子供たちの居場所がない。家に閉じこもる子は登校拒否と言われるし、学校や地域で自己主張する子は突っ張りと言われる。それを弱いところに向けるといじめになる。教育自体がゆがんできているのではないか。

深谷 学校は息苦しいという指摘をどう考えますか。

山本 以前、中学校で美術を教えていた。授業では「おおらかにやれ」「楽しくやれ」と言っても、成績をつけないといけない。「授業でいい作品とほめながら、成績が1じゃおかしいじゃないか」と、抗議されたこともあった。愛知県では、高校に進学する時点で一割の子が落とされ、制度が息苦しくさせている。

杉浦 管理教育がいじめの発生装置になっていると思う。子どもの管理のように思われるが、教師も管理されています。

山本 教師たちがそれを意識しないで生徒を管理しているのがこわい。校内暴力は直接的な異議申し立てだったが、子供も管理されるのに慣れ、申し立ても知らないという感じ。

深谷 日本の教育は学力をつける点では非常にレベルが高いが、一人ひとりを見つめて育てていくのは苦手。その一番弱いところに問題が出た。

河村 西尾市のある親から電話をもらった。「地域の中では、学校にいかないと村八分にされると見られている。だから清輝君もどんなことがあっても学校に行かないではおれなかったのではないかと」。

山田 普通に育っていれば「これだけやったら痛いだろう」とか、「悲しむ人がいるだろう」とか思う。でも、残虐といわれる事件の子どもたちは、相手の気持ちを理解するだけの感性が育っていない。

河村 不登校の子どもたちに聞くと、みんなと同じでなく、いろんな考え方をすることによって学校から排除された経験がある。

山本 仲良しグループだと思っていたら、実はグループ内でいじめられていたことがあった。いじめられている子どもが「ちくった」と言われて逆効果にならないように、双方にそれとなく声をかけたりしたが、解決するのは難しい。

深谷 子どもには地域と家庭と学校の暮らしがあり、学校は何分の一でいい。しかし、日本の場合、地域の暮らしがなく、すべて学校に依存している。子どもたちには学校に行こうと考えなくてもいいから、放課後をのびのびとさせてやりたい。

河村 愛知県の学校では、「非行に走るから」と、朝早くや夜遅くまで部活で子供たちを拘束している。親には日曜日ぐらい家にいてほしいという気持ちがある。

山本 教師も休まないと、個々の子どもを見つめる精神的な余裕がなくなる。半面、休み時間に休んでいると、子どもが見られない。そのジレンマがある。

深谷 先日、いじめ対策緊急会議の報告が出たが。

杉浦 養護教諭を保健主事にしてもいいというが、肩書だけ持ち上げても困る。子ど

もが近寄って行くのは、給食のおばさんや用務員、養護教諭といった成績をつけない人だということに気づいてほしい。

山本 対症療法にもならないと思う。例えば、地域パトロールを始めても仕事が増えるだけ。報告書作りのような仕事を減らし、その分子どもと接する時間を増やす方が大切だ。

河村 いじめた生徒を出席停止にするより、もっと人間的な教育を目指すといった、根本的なところに目を向けてほしい。悲観的だが、学校が根本から変わらない限り、学校に行かなくてもいいと私は思う。

深谷 欧米では、一定の限度を超えると、十代でも子どもに犯した罪の責任を取らせていますが。

山田 何が原因か、どこが悪かったかを家庭裁判所で明らかにするのも、子どもには大切なこと。しかし、立ち直る援助をするのが少年法の理念。司法、学校がそれぞれの立場から連携して子どもの立ち直りのため努力すべきで、警察や裁判所に任せ、学校が何もしないのはいけない。

山本 西尾市がいじめ対策室を作り、元教師をカウンセラーにするというが、十分な専門的訓練を受けていない人が役目を果たせるのでしょうか。

深谷 対策は、今やるべきことと長い目でやることに分けるべきだ。一人のカウンセラーを育てるには十年かかる。国や県は大学院まで手を広げ、フルタイムで働くカウンセラーを育成する必要があります。いじめをなくすために、一番大事なことは何か。

山本 子どもたちをじっくり見るひまを作ってほしい。若い先生は、部活などで忙しく、子どもの相談に乗る時間がありません。

河村 学歴が高く良い会社に入ればいい、という親の価値観を変えるべきだ。学力だけを求める教育を学校側に要求したり、塾に踊らされたりする。親の価値観を変えないと、子どもが見えてこない。

杉浦 学校の自浄力を信じたいが、難しい。三河地方の中学校の頭髪が丸刈りから自由化されたのも親たちの要望が強かったためで、教師が変えたわけではなかった。地域、親と教師の連携は大きな力を持つ。

山田 大人は、子どものためにと思っている。でも、本当に子どものためなのだろうか。一人ひとりの生き方の違いを尊重し、ゆとりを大切にしてほしい。

深谷 日本では、みんなが集団の中で頑張り、ビジネスマンのやりかたを学校も見習ってきた。しかし、学歴社会は崩れ、子どもが個性的に生きる条件はできている。いろいろなところで、いろいろな立場の人が語り合うことで、解決が少しでも見つかるのではないかと思います。

このように、学校の問題点を挙げるばかりである。

逆に、加害者の記事に関しては、「いじめた少年たちの実像は… 大河内清輝君いじめ事件 【名古屋】1995年4月5日(朝)」に典型的に示されているように、彼らの成育歴から反省の念が薄いことや反省していることが掲載されているのみである。さらに、加害の保護者の責任はどうであったのだろうか。朝日の記事の中で見えないのは、加害生徒の親の存在である。したがってあたかもいじめが自然災害のように扱われ、それに対処できなかった教師、学校の責任を掲載するのは腑に落ちない。

(5) 学校教育への構造的批判

受験偏重 7 画一教育 5 学校の名誉や体面 5 教師の体罰 4 何でもお金 4
 学歴偏重の教育 3 学校の隠ぺい体質 3 競争 4 校則 3 偏差値教育 1
 入試 1 教師の侮辱 1 管理教育 2 良い子でなければいけない 1
 学力偏重 1 教育体制 1 異質排除 1 ネットいじめ 1

いじめ自殺の事件は、学校教育への構造的批判に重点が置かれる。学校の特質（だと考える朝日）の学校の体面を重んじ、隠ぺいする体質から画一教育や管理教育、学歴偏重、受験教育の弊害等当時、一般的であった学校教育への批判が続く。今回のいじめ自殺というケースとの因果関係がなんら示されないまま（受験教育や学歴偏重をもって学校教育批判を行うならば、朝日がまずもって模範を示すべきではないだろうか。東大等の高学歴の学生ばかり記者として採用しないで、高卒も採用するとか、関連会社の週刊朝日の高校別大学校各社ランキングを止めるとか。）。

(6) このいじめ自死事件における掲載における主体

このいじめ自死事件において、朝日は様々な主体の感想や意見、対策を掲載している。それは以下の通りである。

弁護士会 8 教育委員会 6 教育長 6 県議会 5 教職員組合 4 市議会 3
 警察 3 文科省 2 県 2 校長 2 小・中・高生 2 (決意文等) 大学生 2
 作家 2 父親 2 法務局 2 カウンセラー 2 学者・教育学者 2 内閣 1
 厚生省 1 教育委員長 1 養護教諭 1 弁護士 1 NPO 1 ジャーナリスト 1
 ルポライター 1 映画監督 1 詩人 1 いじめをなくす親の会 1
 いじめの被害者 1 いじめの悩み相談者 1 いじめの加害の親 1

その多くは、学校の責任を問うものであった。典型的なのが以下の記事である。

西尾市の東部中二年、大河内清輝君がいじめを苦に自殺した問題が七日の愛知県議会代表質問で取り上げられ、野村光宏県教育長は、「教師と生徒の心のふれあう人間関係、生徒の発したシグナルを早期に察知しての対応、保護者が教師に気軽に相談できる信頼関係が結ばれていたのかどうか問題になる」と述べた。そのうえで、各学校にはいじめの根絶に取り組むよう指導を充実することを明らかにした⁽⁷⁾。

(7) 朝日のいじめ対策等の記事

(1) ~ (6) から朝日は様々な対策等の記事を掲載してきた。多彩な対策等である。

カウンセリング要請13	いじめ授業(大川内君の遺書を教材にを含む)10
電話ホットライン7	いじめ講演会6
いじめシンポジウム4	いじめ相談6
いじめ防止の集い4	全校集会5
PTA会合3	学校によるいじめアンケート4
地域で守る3	他校のいじめ作文授業3
在校生の取り組み3	区の取り組み3
市民グループの取り組み3	
校長処分の非公開を公開に3	文科省のいじめ調査3
いじめ本3	
朝日のいじめ体験談3	中学校教師のいじめアンケート2
遺族会2	
いじめ体験者の先輩からのメッセージ2	卒業生からのメッセージ2
教員研修2	県の取り組み2
いじめフォーラム2	いじめ総点検2
親の勉強会2	修学旅行中に文科省訪問2
警察(ピラ配り、いじめの相談2	
いじめについて語る会2	いじめ裁判支援の集い2
養護学校との比較1	
学校と親の話し合い1	いじめた側の人権守れ1
親が通報を1	
アメリカのいじめ対応1	いじめる子への対応を1
教員増加1	社会の共生1
親が動くしかない1	養護教諭の対応1
地域連携1	市長1
心のこもった対話1	教室にメスを入れる1
教師の子ども理解1	教育機関1
第三者機関1	教師の指導体制の見直し1
文科省の対策1	
いじめ根絶アピール1	学校の対策(不十分なので)1
いじめの声のCD化1	
いじめ・不登校に学ぶ会1	公開討論会1
いじめ対策委員会(教委・学校・警察・児童相談所)1	母親たちの組織1
市の取り組み1	県教委のいじめ相談1
私立高校の取り組み1	
いじめパンフレット1	いじめリーフレット1
東京シューレ1	
いじめテーマのアニメ1	詩人の後援会1
情報公開1	
悩みを打ち明けられる場所1	仕返し1
新進党の「いじめ調査団」1	
スイミングクラブ1	地域・学校・警察の連携1
人権教育の必要性1	子ども観の見直し1
サマーセミナー1	連続講座1
文科省のいじめ対策報告書1	いじめドラマ1
いじめ卒論1	いじめ手記1
いじめについて大学ゼミ1	社会学の本で取り上げる1
素人画家が絵を送る1	
高校生と地域交流1	いじめ記事連載1
大川内君の両親らに取材して本にする1	
母親の体験1	生徒会の取り組み1
いじめ防止プログラム1	中学生の活動1
映画作成1	夢1
把握する方向の見直し1	いじめ展示1
いじめ指導書1	
手引書「小さなサインが見えますか」1	やさしい人間関係1
いじめは人権問題1	
座談会1	いじめに親が報復1
マスコミの学校の見方が変わった1	

特徴的なのは、カウンセラーへの過度な信頼であろう。それとは真逆に、いじめの内容が恐喝、暴力等であり、100万円以上のお金を巻き上げたにもかかわらず、その加害への責任を問う対策等の記事がほとんどないことである。犯罪というよりも“心の問題”であり、学校、教員のいじめを気付かない“鈍感さ”に求めていることである。成人、つまり、学校教育を卒業した後であれば、その犯罪性について、加害者本人、さらに保護者のことについてあれこれ批判的な記事にするにもかかわらず、学校教育に所属している未成年に

はその類の記事が見当たらないということである。とにかく、被害者と学校の責任の周囲をぐるぐる回っているだけという印象を受けるのである。

5. まとめ

以上、「愛知県西尾市中学生いじめ自殺事件」を事例に朝日新聞の「教育言説」を検討してきた。「言説」の特徴を述べれば、ほぼ学校教育の責任を問うている内容である。その中でも教師の“鈍感さ”に原因が求められている。その理由は、生徒の管理や受験教育等の学業ばかりに眼がいて、画一教育を行い、生徒の“心”を理解しないことである。学校組織もいじめがあってもその体面から隠蔽体質があるということである。そのアンチテーゼから弁護士会（人権）、カウンセラー（生徒理解）が多く「教育言説」に登場してくることになる。ならば、朝日の記者と弁護士とカウンセラーで学校を組織して運営してみればよいのだ。

（恐らく）このような「言説」を受けて、2013年にいじめ防止対策推進法が施行された。この法律により、いじめはなくなったのだろうか。劇的に減少したのだろうか。ある学校現場では、ちょっとしたいじめの兆候かもしれないとなれば、毎日のように会議の連続だそうである。教師の仕事のブラック化を助長する一因となっている。またいじめ問題に関し、児童・生徒の保護者との関係がこじれる場合が多々あり、困難な状況におかれてしまう。朝日の「言説」の論調からいえば、教員が昔ながらの慈愛的権威をもってすれば、カウンセラーマインドをもってすれば、その前提として生徒との信頼関係があれば、いじめ指導をした際、生徒が泣いて先生や被害生徒に素直にいじめの事実を認めて反省すると思っているのであろうか。そうではない場合がほとんどである。そうなるといじめの事実となる証拠調べや加害生徒に指導という名の追求となれば、子どもの人権侵害だと批判するのが朝日新聞の「教育言説」ではなかっただろうか。そうなれば、警察のような捜査権もなくまたそのようなスキルのない学校、教員はお手上げという状況になる。そのため第三者機関が必要だと教員は考えている⁽⁸⁾。

また今回のケースのように、いじめというより、恐喝、暴力については、学校の範疇を越えたとして、警察との連携が必要だと説き、実際文部科学省もそうした通知を出し繰り返し強調してきた。それが問題の予防や早期解決につながるという主張もなされるようになってきた⁽⁹⁾。

アメリカでは、いじめ等の生活指導的な仕事は、教員ではなくスクールカウンセラーが行い、不適切な行為の要因が家庭環境であると考えられるケースではスクールソーシャルワーカーが受け持っている⁽¹⁰⁾。警察との連携もアメリカでは、警察が学校内に在駐しているという例もある⁽¹¹⁾。この事実もそう新しいものではない。

しかし、朝日の「教育言説」を読む限り、上記のような対策は批判的に捉えられている。恐らく朝日の記者は、例えば荒れている学校に生徒としての経験もなければ、取材を通して、肌で感じたこともないのであろう。受験による画一的な教育と「いじめ自殺」の問題を根拠もなしに因果関係として繋げているが、自らの関連会社である週刊朝日が毎年、高校別大学合格者数の特集に組み、それが結果として受験競争を煽っているということに考えが及ばない、また自らの新聞が大学入試によく使われていると宣伝することが間接的にも受験を煽っているという想像力に欠けているということに気付かないのであろうか。

(注)

- (1) ウィキペディア：2021年11月2日閲覧。
- (2) 地方版と全国版において同様の記事が掲載されている場合もあるが、それもカウントしている。
- (3) 「グループ側と認識 いじめ気づかず」1994年12月9日(朝)
- (4) 1994年12月14日(夕)
- (5) 1994年12月15日(朝)
- (6) これは、朝日新聞における「教育言説」の手法のひとつである。拙論「マスコミの「学校バッシング」における「教育言説」の批判的検討—朝日新聞の「校門圧殺死事件」の記事を手掛かりに(都留文科大学研究紀要第95集、2022年3月)の手法⑤(p.193.)参照。
- (7) 県議会で東部中いじめの質問受け根絶を強調 愛知県教育長【名古屋】1994年12月7日(夕)
- (8) 「約9割「第三者機関が必要」教委教職員いじめ問題こじれ苦慮 NPO調査」(日本教育新聞2022年1月10日)
- (9) 瀬田川聡『ためらわない警察連携が生徒を守る 被害生徒を生まない毅然とした生徒指導』(学事出版、2015年) pp22~24.
- (10) 片平紀子・藤平敦・宮古紀宏『日米比較を通して考えるこれからの生活指導』(学事出版、2021年) p.34.
- (11) 同上、pp.71~72.

〈朝日新聞記事〉

- ・「金もとられた」自殺の中2、いじめ苦の遺書 愛知(1994.12.2(夕))。
- ・中2「いじめ」苦に自殺 現金110万円?渡す 西尾【名古屋】(1994.12.2(夕))。
- ・西尾市内の小中でいじめの実態調査へ 市教委【名古屋】(1994.12.2(朝))。
- ・11人の生徒が関与 取った金で「遊ぶ」愛知・西尾の中2自殺(1994.12.3(朝))。
- ・6年前も生徒自殺「いじめが原因」の声 中2自殺の中学 愛知(1994.12.3(夕))。
- ・この「遺書」を無にするな(社説)(1994.12.4(朝))。
- ・大河内清輝君の自殺で校長が謝罪 PTA役員会で【名古屋】(1994.12.4(朝))。
- ・いじめ、友人かばい拍車 大河内君、優しさが裏目 愛知の中2自殺(1994.12.4(朝))。
- ・「無念の死」に衝撃 西尾のいじめ自殺、中学関係者に聞く【名古屋】(1994.12.5(朝))。
- ・大河内清輝君の遺書全文 いじめを苦にして自殺した愛知の中学生(1994.12.5(朝))。
- ・いじめ被害、他の生徒も「僕もよく死のうと思った」愛知の中2自殺(1994.12.5(夕))。
- ・乱暴見ていて面白かった 自殺の大河内君をいじめた少年【名古屋】(1994.12.5(夕))。
- ・いじめ、僕も被害者 大河内清輝君と同じ中2男子が証言【名古屋】(1994.12.5(夕))。
- ・法務局が調査を開始 愛知県西尾市の中2いじめ自殺【名古屋】(1994.12.5(夕))。
- ・心明かさず最後の10日(13歳の遺書 愛知いじめ事件:上)(1994.12.6(朝))。
- ・顔にアザ、壊された自転車 教師はいじめと見ず 大河内清輝君の自殺(1994.12.6(朝))。
- ・第三者的姿勢の教師にも問題(声)(1994.12.6(朝))。
- ・指導主事集め対策協議 大河内君のいじめ自殺で愛知県教委【名古屋】(1994.12.6(朝))。
- ・再発の防止に「内閣も対応」大河内清輝君自殺で村山首相が答弁(1994.12.6(朝))。

- ・顔にアザ、壊された自転車 教師はいじめと見ず 大河内清輝君の自殺 (1994.12.6 (朝))。
- ・「子の責任問うべき」専門家会議も招集へ 与謝野文相、いじめ問題で (1994.12.6 (夕))。
- ・「いじめ問題」私はこう見る 教育問題に詳しい人たちに聞く (1994.12.6 (夕))。
- ・自殺直前にも現金をとる 大河内君いじめ問題 愛知 (1994.12.6 (夕))。
- ・いじめ自殺、今年5件 悲痛なメモ「真実言えぬ子たくさん」 (1994.12.6 (夕))。
- ・学校の責任を認める 大河内清輝君自殺で西尾・市教育長【名古屋】 (1994.12.6 (夕))。
- ・“予兆”数々、動かぬ学校 (13歳の遺書 愛知いじめ事件:中) (1994.12.7 (朝))。
- ・深刻さ見抜けず、無念 大河内君いじめ自殺で西尾市教育長【名古屋】 (1994.12.7 (朝))。
- ・名古屋弁護士会が「いじめ110番」を実施【名古屋】=訂正あり (1994.12.7 (朝))。
- ・県議会で追及へ きょう4会派が質問 大河内君いじめ自殺【名古屋】 (1994.12.7 (朝))。
- ・県議会で東部中いじめの質問受け根絶を強調 愛知県教育長【名古屋】 (1994.12.7 (夕))。
- ・いじめ集団に「序列」リーダー格に従い脅す 愛知の中学生自殺 (1994.12.7 (夕))。
- ・いじめ集団に金分配の序列 リーダー格数人 愛知・東部中【名古屋】 (1994.12.7 (夕))。
- ・いじめ自殺に「犯罪行為認められる」議会で県警本部長【名古屋】 (1994.12.8 (朝))。
- ・カネなしで遊べない“仲間” (13歳の遺書 愛知いじめ事件:下) (1994.12.8 (朝))。
- ・学校側が遺族に質問回答書 遺族側は受けとらず 愛知のいじめ自殺 (1994.12.8 (朝))。
- ・「恐喝などの場合は補導措置も」と県警 愛知の中2 いじめ自殺 (1994.12.8 (朝))。
- ・つらかったね、大河内清輝君 (声) (1999.12.8 (朝))。
- ・清輝君だけじゃない 身近にいじめが 金品要求や集団無視【西部】 (1994.12.8 (朝))。
- ・ナゴヤマル・8日【名古屋】 (1994.12.8 (朝))。
- ・子供の人権と福祉でシンポジウム 名古屋・西区【名古屋】 (1994.12.8 (朝))。
- ・両親の質問に学校側が回答 遺族側受け取らず いじめ事件【名古屋】 (1994.12.8 (朝))。
- ・愛知県小中校長会が根絶決意文 大河内君のいじめ自殺問題【名古屋】 (1994.12.8 (朝))。
- ・投稿巡り若者ら激論 教師への不信感も 本紙「ジーンズ」【名古屋】 (1994.12.8 (夕))。
- ・グループ側と認識、いじめ気づかず 自殺の大河内君の行動記録公表 (1994.12.9 (朝))。
- ・遺書を教材に学びの輪 愛知のいじめ自殺受け県内小・中校/群馬 (1994.12.9 (朝))。
- ・9割、いじめあった九州・山口の中学教師100人に聞く【西部】 (1994.12.9 (朝))。
- ・清輝君を自殺に追いやったもの 教育関係の3氏こう考える【名古屋】 (1994.12.9 (朝))。
- ・「いじめ」今もどこかで 朝日新聞社募集に2日で186通の“告発” (1994.12.9 (朝))。
- ・対策委を強化、巡回相談も 西尾のいじめ自殺、県議会で論議/愛知 (1994.12.9 (朝))。
- ・遺書の声と落差 清輝君自殺西尾・東部中が行動記録公表【名古屋】 (1994.12.9 (朝))。
- ・行動記録の公表は「おかしい」「一方的」と父親 愛知のいじめ自殺 (1994.12.9 (夕))。
- ・「周りの心の弱さも原因」群馬で大河内君の遺書を使い授業 (1994.12.9 (夕))。
- ・いじめ対策で緊急会議を招集 文部省 (1994.12.9 (夕))。
- ・生徒脅して130万円 恐喝容疑で中学生13人書類送検 福岡・田川 (1994.12.9 (夕))。
- ・「いじめ」どこにも意識で 文部省がいじめ対策緊急会議アピール (1994.12.10 (朝))。
- ・文部省いじめ対策緊急会議アピール<要旨> (1994.12.10 (朝))。
- ・学校が取材自粛要請 愛知県西尾市の中2 いじめ自殺事件で (1994.12.10 (朝))。
- ・「いじめ」テーマが26% 昨年度から再び増加 人権作文コンテスト (1994.12.10 (朝))。
- ・「教室は生き地獄でした」「いじめ体験」本社に455通【西部】 (1994.12.10 (朝))。

- ・「ふざけ」か「いじめ」か 学校と遺族にミゾ 清輝君自殺【名古屋】(1994.12.10 (朝))。
- ・両親、回答書受け取る 公開問題は保留 愛知・東部中いじめ自殺 (1994.12.10 (夕))。
- ・両親、回答書受け取る 西尾・東部中いじめ自殺【名古屋】(1994.12.10 (夕))。
- ・いじめ被害の中学生、半数が我慢 岐阜県弁護士会が調査【名古屋】(1994.12.10 (夕))。
- ・PTAが学校に防止策迫る いじめ自殺の西尾・東部中【名古屋】(1994.12.11 (朝))。
- ・声かける暇ない日も 教育現場に危機感 いじめ問題教師の意見/群馬 (1994.12.11 (朝))。
- ・責任どこに いじめ自殺の西尾・東部中でPTA総会【名古屋】(1994.12.11 (朝))。
- ・先生たちも悩んでいる「学校だけ責めないで」いじめ体験談 (1994.12.11 (朝))。
- ・窓ガラス割られる 中2 いじめ自殺の東部中 愛知・西尾 (1994.12.12 (夕))。
- ・学校の回答、公開はせず 両親は受け取る いじめ自殺の愛知・東部中 (1994.12.12 (夕))。
- ・学校から両親への回答書は非公開に 東部中いじめ自殺事件【名古屋】(1994.12.12 (夕))。
- ・自殺直前の恐喝に注目 西尾・東部中のいじめ自殺事件で愛知県警 (1994.12.13 (朝))。
- ・遺書について作文 白井町の七次台中 愛知の中2 自殺事件で /千葉 (1994.12.13 (朝))。
- ・いじめに効果的な米国の対策 多賀幹子 (論壇) (1994.12.13 (朝))。
- ・いじめに気づいた人は家族に通報を (声) (1994.12.13 (朝))。
- ・いじめの本質、見据えること (声) (1994.12.13 (朝))。
- ・町内会長集め地域協力要請 いじめ自殺で西尾市長【名古屋】(1994.12.13 (朝))。
- ・恐喝・暴行の解明めざす 西尾のいじめで愛知県警【名古屋】(1994.12.13 (朝))。
- ・学校側、異例の取材自粛要請 愛知の中2 いじめ自殺事件 (メディア) (1994.12.13 (朝))。
- ・いじめ相談充実を 厚生省が都道府県に通知 (1994.12.13 (夕))。
- ・いじめ防げぬ教育界の体質 (声) (1994.12.14 (朝))。
- ・校長「いじめ、あった」愛知・岡崎で中1生自殺【名古屋】(1994.12.14 (朝))。
- ・「重大な関心」持ち情報収集 中1生自殺で法務局岡崎支局【名古屋】(1994.12.14 (朝))。
- ・無力さかみしめています いじめで自殺した大河内清輝君の担任が手記 (1994.12.14 (夕))。
- ・サイン見逃したなら心痛む 岡崎の中1 自殺で校長が会見【名古屋】(1994.12.14 (夕))。
- ・「先に私たちに」担任の手記で大河内君の父 愛知のいじめ自殺 (1994.12.15 (朝))。
- ・いじめの芽、今年度11件 教育長が市議会で明らかに 下館 /茨城 (1994.12.15 (朝))。
- ・東部中学「未確認事実も」西尾の大河内君いじめ問題【名古屋】(1994.12.15 (朝))。
- ・「いじめ」総点検を 県教委、人間関係よくし地域連携を通達 /兵庫 (1994.12.15 (朝))。
- ・鹿川裕史君の父親「気持ち分かる」大河内家を訪問【名古屋】(1994.12.15 (朝))。
- ・大河内君いじめの「記録」詳細に 西尾市教委が発表【名古屋】(1994.12.15 (朝))。
- ・小中学生のいじめ516件 冷やかしや暴力 県内で昨年度 /静岡 (1994.12.16 (朝))。
- ・苦しみを抱えている子ども達へ 自殺した清輝君の父が手記【名古屋】(1994.12.16 (朝))。
- ・「二度とないように」いじめ自殺の大河内君の父親が手記 (1994.12.16 (朝))。
- ・清輝君の死の不本意な余波 (声) (1994.12.16 (朝))。
- ・「受験が子供圧迫」いじめ問題に議論集中 県議会文教委 /福岡 (1994.12.16 (朝))。
- ・学級の8割以上「いじめ体験」遺書教材に中2が作文 埼玉・飯能 (1994.12.16 (朝))。
- ・「いじめ」で緊急校長会 指導の徹底を求める 名古屋市教委 /愛知 (1994.12.17 (朝))。
- ・いじめられっ子が見ている (社説) (1994.12.17 (朝))。
- ・いじめはエスカレートする「体験談」の手紙・ファクスから (1994.12.18 (朝))。

- ・両親と担任が約2時間懇談 西尾のいじめ自殺【名古屋】(1994.12.18(朝))。
- ・いじめは次第に激化する 朝日新聞社への投書から【名古屋】(1994.12.18(朝))。
- ・いじめ自殺の解決には(ナゴヤマル・ちょっと気になるあの話)/愛知(1994.12.19(朝))。
- ・信用を失った、今の大人たち(声)(1994.12.19(朝))。
- ・いじめから、わが子救った 母親たちは気づいた(きょういく94)(1994.12.19(朝))。
- ・いじめ振り返って「命」考え終業式 西尾・東部中【名古屋】(1994.12.22(夕))。
- ・「気軽に相談を」いじめ防止へメッセージ 警視庁、駅でピラ配布(1994.12.23(朝))。
- ・いじめ根絶願ひシンポ「根源に管理教育」名古屋と岡崎【名古屋】(1994.12.24(朝))。
- ・カウンセラー配置を・親が話し合えば…「いじめ防止策」で投書続々(1994.12.25(朝))。
- ・いじめと死をなくすため、専門家に聞く傾向と対策(きょういく94)(1994.12.26(朝))。
- ・共生 社会の温かさ、取り戻したい(キーワード94:6)(1994.12.26(朝))。
- ・教育の崩壊教えた遺書、再建へ議論を 山岸駿介(がっこう解体新書)(1994.12.26(朝))。
- ・学校つまらない 暇もて余しいら立つ(いじめ社会の子どもたち:1)(1994.12.26(朝))。
- ・ひとり悩み、口に出さない教師たち(いじめ社会の子どもたち:2)(1994.12.27(朝))。
- ・「死なないで」いじめられた先輩からメッセージ(1994.12.27(朝))。
- ・「いい子」に疲れた子、いやす大人がいれば… 西尾の中2 いじめ自殺(1994.12.28(朝))。
- ・宣言に「いじめ根絶」地域ぐるみ課題に 来月の生徒指導大会/愛知(1994.12.28(朝))。
- ・気持ち届かず我が子が見えぬ親たち(いじめ社会の子どもたち:3)(1994.12.28(朝))。
- ・生徒とのふれあい確保を いじめで県教委、学校長らに対策説明/山梨(1994.12.28(朝))。
- ・すったもんだもありました 94年仕事納め【名古屋】(1994.12.28(夕))。
- ・「いじめ」の相談急増 愛知県警の「ヤングテレホン」【名古屋】(1994.12.29(朝))。
- ・だれにも言えぬ本音、聞き役はテープ(いじめ社会の子どもたち:4)(1994.12.29(朝))。
- ・愛知この一年(10月～12月)/愛知(1994.12.30(朝))。
- ・8年ぶり「対策通知」行政には限界(いじめ社会の子どもたち:5)(1994.12.30(朝))。
- ・「いじめ自殺」に大きな反響(声・12月の投書から)(1994.12.30(朝))。
- ・ニッポン、ただいま午後三時(社説)(1994.12.30(朝))。
- ・いじめ相談員、大幅増 新年度から国と連携 愛知県教委【名古屋】(1995.1.3(朝))。
- ・教師はいつまで無力なのか 変わらぬ学校、繰り返されるいじめ(1995.1.11(朝))。
- ・いじめ問題集中討議「地域との連帯を」沼津市教育振興会/静岡(1995.1.13(朝))。
- ・カウンセラー6人増「いじめ対策」県が新年度から/愛知(1995.1.14(朝))。
- ・丸刈り廃止の活動報告、教育改革へ模索 河口湖南中生徒会代表/山梨(1995.1.20(朝))。
- ・いじめ 中村徳次(いんぐりっしゅ漫歩)(1995.1.22(朝))。
- ・いじめ 投稿特集(語りあうページ)【大阪】(1995.1.24(朝))。
- ・小6少女が「いじめ物語」書いた 北茨城市立・中妻小/茨城(1995.1.28(朝))。
- ・斉藤安彦弁護士 子ども人権センター(ひと・人・しずおか)/静岡(1995.1.28(朝))。
- ・いじめ問題集中討議「行政悪い」「教師の問題」日教組・教研集会(1995.1.29(朝))。
- ・「いじめ」なくす対策は(知事選候補者にここが聞きたい:8)/愛知(1995.1.31(朝))。
- ・教育方針見直しを学校等に要望 いじめ自殺の大河内君の父【名古屋】(1995.1.31(夕))。
- ・「生徒指導見直しを」自殺した大河内君の父親、西尾市教委に要望書(1995.1.31(夕))。
- ・広島市内で「いじめフォーラム」早期発見話し合う/広島(1995.2.1(朝))。

- ・清輝君いじめ、書類送検へ中2の4人、恐喝容疑 県警【名古屋】(1995.2.10(朝))。
- ・4生徒、書類送検へ10万円恐喝の疑い 愛知・大河内君いじめ自殺(1995.2.10(朝))。
- ・大河内清輝君いじめ自殺で中学2年4人を書類送検4万円恐喝の疑い(1995.2.11(朝))。
- ・大河内君自殺受け、いじめ根絶へ活動提言 西尾市PTA連絡協/愛知(1995.2.16(朝))。
- ・登校拒否ヒントにいじめ・自殺考える あす大宮で集会/埼玉(1995.2.17(朝))。
- ・少年4人を家裁へ送致 西尾の中学生いじめ自殺事件【名古屋】(1995.2.17(朝))。
- ・少年4人への審判開始が決定 愛知・西尾の東部中いじめ事件(1995.2.28(朝))。
- ・4組織でいじめ対策 西尾市教育委員長が答弁 大河内君自殺問題/愛知(1995.3.3(朝))。
- ・いじめ報告書の公開求める大河内君自殺で 岡崎の市民団体【名古屋】(1995.3.4(朝))。
- ・いじめ防止、なお手探り 清輝君自殺から3カ月(きょういく95)(1995.3.6(朝))。
- ・いじめ撲滅、後輩に託す 事件振り返り答辞 西尾の東部中【名古屋】(1995.3.7(夕))。
- ・いじめ問題で養護教諭の役割重視 学校の体質批判 緊急会議報告書案(1995.3.9(朝))。
- ・送致の4人、観護措置に西尾・いじめ事件で家裁支部【名古屋】(1995.3.10(朝))。
- ・いじめはなくなる、8割超す 県立石和高校でアンケート/山梨(1995.3.15(朝))。
- ・『一人で苦しむな』運動を(社説)(1995.3.15(朝))。
- ・いじめに報復、傷害容疑で父逮捕「警告の意味でやった」宗像(1995.3.15(夕))。
- ・いじめ契機に人権を考える(教育ねっとわーく)/静岡(1995.3.17(朝))。
- ・「息子へのいじめをやめさせたかった」報復の父親が語る 福岡(1995.3.17(夕))。
- ・「父の心情」引き金? いじめ報復(NEWS三面鏡)【西部】(1995.3.17(朝))。
- ・校長を減給、5人処分へ 西尾・東部中学のいじめ事件【名古屋】(1995.3.22(夕))。
- ・校長ら9人処分「指導態勢不足」と教委 西尾いじめ事件【名古屋】(1995.3.25(朝))。
- ・教師への不信感ぬぐえぬ 西尾のいじめ自殺事件で教員処分【名古屋】(1995.3.25(朝))。
- ・大河内清輝君事件で校長らを処分 愛知県教委(1995.3.25(朝))。
- ・愛知の件数際立つ 低年齢化顕著 文部省のいじめ総点検【名古屋】(1995.3.25(朝))。
- ・いじめなくそう 都内でホットライン開設やいじめ根絶アピール/東京(1995.3.29(朝))。
- ・教職員異動は計8千396人に 愛知県・名古屋市【名古屋】(1995.3.30(夕))。
- ・「子のよさ認めたい」西尾・東部中の渡辺新校長に聞く【名古屋】(1995.4.3(夕))。
- ・いじめ、生の声をCDに 涙の訴えや悔恨(1995.4.3(夕))。
- ・「いじめ・不登校」で親の交流会 清輝君の父の同窓生結成【名古屋】(1995.4.4(夕))。
- ・問題解決へ個々の力を「いじめ」座談会【名古屋】(1995.4.5(朝))。
- ・名古屋家裁の4生徒処分 大河内清輝君いじめ自殺事件【名古屋】(1995.4.5(朝))。
- ・3生徒を少年院送致 愛知いじめ自殺で名古屋家裁岡崎支部(1995.4.5(朝))。
- ・いじめた少年たちの実像は… 大河内清輝君いじめ事件【名古屋】(1995.4.5(朝))。
- ・いじめ見ぬふりやめよう 生徒自殺の愛知の中学校長が4生徒処分報告(1995.4.7(夕))。
- ・週間報告(1995年4月3日～4月8日)(1995.4.10(朝))。
- ・いじめの処分、真摯に受けて(声)(1995.4.12(朝))。
- ・いじめのきざし気づかず 福岡・豊前の中2自殺【西部】=訂正あり(1995.4.17(夕))。
- ・少年3人の処分が確定 清輝君事件【名古屋】(1995.4.19(夕))。
- ・子の内なる自然に従い(メールボックス)/広島(1995.4.20(朝))。
- ・学びあう母親たち 子育て・いじめ・学校教育…各地に勉強会(1995.4.24(朝))。

- ・好評を受けて10周年 フリートーク (語りあうページ)【大阪】(1995.4.25 (夕))。
- ・いじめ・不登校児の悩み「親同士話し合おう」西尾で交流会 /愛知 (1995.5.1 (朝))。
- ・子どもたちの遺書 (天声人語) (1995.5.10 (朝))。
- ・「いじめ」の件数、前年度比5倍に昨年度の子供相談 /静岡 (1995.5.12 (朝))。
- ・少年側の抗告棄却 清輝君いじめ事件で少年院送致 愛知【名古屋】(1995.5.18 (朝))。
- ・クライトン思わせる瀬名秀明氏の筆 宗田理 (近刊・私の収穫) (1995.5.21 (朝))。
- ・いじめた少年、反省の日々 大河内清輝君の自殺から半年【名古屋】(1995.5.27 (朝))。
- ・いじめ実態調査へ9月、子・親らを対象に 県対策協初会合 /愛知 (1995.5.30 (朝))。
- ・4少年全員の保護処分確定 西尾・東部中の清輝君事件【名古屋】(1995.6.1 (夕))。
- ・文部省報告に対する意見文集 いじめ対策で市民グループ【名古屋】(1995.6.6 (夕))。
- ・いじめ根絶を 西尾・東部中の6人、修学旅行で文部省訪問【名古屋】(1995.6.6 (夕))。
- ・清輝君と同学年、文部省を訪問 修学旅行中の愛知・西尾市立東部中生 (1995.6.6 (夕))。
- ・いじめ?自殺の中2 榎原 (ニュース三面鏡)【大阪】(1995.6.17 (夕))。
- ・大人・社会、自責の声 西尾・東部中でいじめ問題討論会【名古屋】(1995.6.26 (朝))。
- ・『なぜボクはいじめられるの』読者の「いじめ体験談」本に (1995.6.27 (朝))。
- ・いじめへ対策を強化 東伊豆町 (教育ねっとわーく) /静岡 (1995.6.30 (朝))。
- ・中3を暴行の疑いで書類送検 豊前いじめ自殺事件 福岡県警【西部】(1995.7.17 (夕))。
- ・いじめ・非行情報提供、母らの組織発足 補導など支援 西尾署 /愛知 (1995.8.4 (朝))。
- ・いじめ防止を決議 豊前市で大会【西部】(1995.8.5 (朝))。
- ・悩んでも電話相談はイヤ 若者ら、留守電やパソコン通信の利用増 (1995.8.13 (朝))。
- ・急増「いじめ」相談 愛知県警のヤングテレホン、回線増へ【名古屋】(1995.8.23 (朝))。
- ・いじめに悩む子の増加裏付け 県警の相談、7日間で44件も /愛知 (1995.9.13 (朝))。
- ・サイン見逃さない結果 いじめ件数の増加で県教育長 県議会 /愛知 (1995.9.29 (朝))。
- ・教師「処分」報告書 市教委が非公開に 清輝君いじめ事件【名古屋】(1995.9.29 (朝))。
- ・いじめ相談、低調 5-8月、全体の3.4% 愛知県教委【名古屋】(1995.10.6 (朝))。
- ・校長にいじめ改善勧告 大河内清輝君事件で名古屋法務局【名古屋】(1995.10.7 (朝))。
- ・東三河生徒交流会、いじめ解決へ討論会 豊川高文化祭 /愛知 (1995.10.9 (朝))。
- ・いじめ解決に「提言パンフ」名古屋弁護士会【名古屋】(1995.10.15 (朝))。
- ・子は親が守ろう いじめ自殺の大河内清輝君の父が訴え【名古屋】(1995.10.15 (朝))。
- ・学校頼り切れず いじめで中3書類送検 (ニュース三面鏡)【名古屋】(1995.10.22 (朝))。
- ・いじめ防止で中学生のいる家庭へ冊子配布 県 /愛知 (1995.10.24 (朝))。
- ・いじめ・登校拒否を考えよう 西城陽中学の春日井教諭が本出版 /京都 (1995.10.26 (朝))。
- ・「指導の手引」 学校長に徹底 いじめで名古屋市教委回答 /愛知 (1995.11.15 (朝))。
- ・学校行かない道も肯定 奥地圭子さん (通が語る プロが斬る) /東京 (1995.11.17 (朝))。
- ・いじめテーマのアニメ映画を上映 西尾です /愛知 (1995.11.17 (朝))。
- ・大河内清輝君の1周年を前に学校で講演会 西尾・東部中【名古屋】(1995.11.20 (朝))。
- ・いじめ少年 (居場所をください 大河内清輝君の死から1年:1) (1995.11.20 (夕))。
- ・いじめに無関心 (居場所をください 大河内清輝君の死から1年:2) (1995.11.21 (夕))。
- ・金と暴力浸透 (居場所をください 大河内清輝君の死から1年:3) (1995.11.22 (夕))。
- ・昨年度愛知県の小中高生自殺は10人「7人いじめ苦」【名古屋】(1995.11.23 (朝))。

- ・信じられない(居場所をください 大河内清輝君の死から1年:4)(1995.11.24(夕))。
- ・8割がいじめを相談せず 愛知県教育サービスセンター集計【名古屋】(1995.11.25(朝))。
- ・清輝君後に自殺増 小中高生で計11人 愛知の公立校【名古屋】(1995.11.25(夕))。
- ・相談の手紙(居場所をください 大河内清輝君の死から1年:5)(1995.11.25(夕))。
- ・清輝君が初めて得た友(社説)(1995.11.26(朝))。
- ・警察のいじめ処理急増 清輝君事件を契機に昨年同期のほぼ2倍(1995.11.26(朝))。
- ・「いじめ」、警察へSOS急増 事件処理電話相談【名古屋】(1995.11.26(朝))。
- ・大河内清輝君のいじめ自殺から1年 模索続く学校・地域【名古屋】(1995.11.27(朝))。
- ・子どもはだれもが弱さ持っている 大河内清輝君の父がメッセージ(1995.11.27(朝))。
- ・土屋守さん:上(幸せを数えたら)【大阪】(1995.11.27(夕))。
- ・大河内清輝君、自殺から1年の命日 母校では生徒集会(1995.11.28(朝))。
- ・いじめ追放考えたい 父母・生徒ら決意新たに 清輝君命日【名古屋】(1996.11.28(朝))。
- ・様々な差別を解きほぐす(舞台裏)(1996.12.8(朝))。
- ・「生きているのが怖い」いじめの遺書残した新潟の中1(1995.11.28(朝))。
- ・いじめ問題を父・識者に聞く 大河内清輝君の自殺から1年【西部】(1995.11.29(朝))。
- ・「抑圧」なくし、いじめなくせ(声)(1995.11.30(朝))。
- ・学校や両親にいじめの実態告げよう(声)(1995.12.1(朝))。
- ・死なないで、いろんな道あるからね 東京でいじめ問題シンポジウム(1995.12.4(朝))。
- ・西尾市と上越市にいじめ調査団派遣 新進党/愛知(1995.12.5(朝))。
- ・ナゴヤマル・5日【名古屋】(1995.12.5(夕))。
- ・「教師もゆとり必要」名古屋市教職労組、いじめ克服へ要望/愛知(1995.12.7(朝))。
- ・いじめ生む「いい子」社会 宮坂麻子(コラム・私の見方)(1995.12.13(朝))。
- ・仲間はずれや暴力でいじめ 島根県教委調査【西部】(1995.12.14(朝))。
- ・いじめ、東海でも急増 愛知では7割の中学で【名古屋】(1995.12.16(朝))。
- ・いじめ情報を父母に示せ(社説)(1995.12.18(朝))。
- ・小・中・高のいじめ、前年度の1.9倍に 昨年度市内/愛知(1995.12.20(朝))。
- ・愛知この一年:1/愛知(1995.12.27(朝))。
- ・愛知この一年:2/愛知(1995.12.28(朝))。
- ・「いじめ」報道の奥、見つめ直す(取材余話95)/愛知(1995.12.29(朝))。
- ・住専処理策に「怒り」が殺到(声・12月の投書から)(1995.12.30(朝))。
- ・先生の間でもいじめ「大河内君事件の背景に」教研集会で報告(1996.1.16(朝))。
- ・いじめ自殺防止へ地域と警察が連携 岡崎に連絡会発足/愛知(1996.1.18(朝))。
- ・いじめ・不登校の子に受け皿 西尾のスィミングクラブなど【名古屋】(1996.1.24(朝))。
- ・死なないで私に相談を いじめ死の中2の父、住所公表 茨城(1996.2.3(朝))。
- ・いじめの背景調査 ど井政美さん(インタビュー直撃・曲撃)/愛知(1996.2.4(朝))。
- ・いじめ防止に確信持てず、先生は苦闘 日教組教研集会でも最大テーマ(1996.2.5(朝))。
- ・いじめ増加 目立つ「いやがらせ」被害 県警ヤングテレホン/千葉(1996.2.7(朝))。
- ・自殺した大河内君両親の手紙教材にいじめ考える授業 横浜/神奈川(1996.2.15(朝))。
- ・「いじめ」のサイン見落とすな 愛知県教委が教師用手引【名古屋】(1996.2.16(朝))。
- ・故伊藤準君と故鹿川裕史君の父が「遺族会」いじめ自殺(1996.2.19(朝))。

- ・学校をどう見るべきか 広田照幸(フォーラム東海)【名古屋】(1996.2.24(夕))。
- ・「学校だけじゃない」ルポライター鎌田さんが小6に授業【名古屋】(1996.3.2(朝))。
- ・いじめ追放、誓い 清輝君の同級生卒業式 西尾・東部中【名古屋】(1996.3.7(夕))。
- ・死をむだにしないで いじめで自殺した大河内清輝君の同級生卒業(1996.3.7(夕))。
- ・いじめ問題でシンポ きょう泉大津で/大阪(1996.3.9(朝))。
- ・いじめ考える連続講座開く「オリニの会」があすから泉大津で/大阪(1996.3.15(朝))。
- ・いじめられた体験、本に 中学時代を振り返り 杉並の高校生/東京(1996.4.5(朝))。
- ・子とのふれあい、各地で芽生え いじめ対策最終報告書提出【名古屋】(1996.7.17(朝))。
- ・父母も講師に型破り講座 恋の話・ギター奏で古文…安城/愛知(1996.7.21(朝))。
- ・いじめ自殺巡る校長らの処分、非公開は違法と提訴 愛知【名古屋】(1996.7.25(夕))。
- ・問う(幸せのかたち 戦後51年:5)/愛知(1996.8.24(朝))。
- ・90年代の逆転本塁打 弱者は建前利用 宮台真司(ウオッチ論潮)(1996.10.30(夕))。
- ・いじめ問題でシンポ 西尾【名古屋】(1996.11.24(朝))。
- ・96年、いじめを読む 三氏に聞く著書のねらいなど(1996.11.25(朝))。
- ・同級生たち 心に変化(いじめへの問いかけ:上)【名古屋】(1996.11.26(朝))。
- ・自作劇上演でいじめ追放誓う 西尾・東部中で集会【名古屋】(1996.11.26(夕))。
- ・大河内君の命日前に、いじめ追放劇 愛知県西尾市の東部中学校(1996.11.26(夕))。
- ・過去のいじめ生徒ら口々に 清輝君の母校で集会 西尾・東部中/愛知(1996.11.27(朝))。
- ・少女の手紙 人間信じて心開く(いじめへの問いかけ:中)【名古屋】(1996.11.27(朝))。
- ・先生の卵たち 話題にならない(いじめへの問いかけ:下)【名古屋】(1996.11.28(朝))。
- ・子どもたちよ、いじめてはいけない 鎌田慧さんメッセージ【名古屋】(1996.11.28(朝))。
- ・いじめの答え探し 大河内清輝君の自殺から2年(きょういく96)(1996.12.2(朝))。
- ・いじめテーマに劇上演 大河内君の母親も訴え 横浜弁護士会/神奈川(1996.12.17(朝))。
- ・劇でいじめ根絶訴え 横浜弁護士会の県民集会で上演/神奈川(1996.12.20(朝))。
- ・豊橋の談合・汚職 知多のチョウ、奄美へ(愛知この一年:下)/愛知(1996.12.30(朝))。
- ・自殺予告 だれか知って(どこへ97ふくしまの切片)/福島(1997.1.8(朝))。
- ・いじめは絶対なくならない 投書に中学生から大反響 通信教材舞台に(1997.2.7(朝))。
- ・「いじめ」東京・東田中1年生の30時間:上(きょういく97)(1997.2.24(朝))。
- ・「異質の存在」排除の図式 いじめ考(きょういく97)(1997.4.21(朝))。
- ・講演会「いじめをなくすために」(ランダム通信)【大阪】(1997.6.30(朝))。
- ・いじめ相談、24時間市民が受けます 電話常設 東京・大阪で準備会(1997.8.8(朝))。
- ・小国町に極楽羅漢美術館オープン 画家の須永博士さん/熊本(1997.9.9(朝))。
- ・高校生と地域交流の大合唱 19日、名古屋で祭典/愛知(1997.10.16(朝))。
- ・いじめ自殺「生きて」訴え続けたい 中根勉(ミニ時評)(1997.11.7(朝))。
- ・有森裕子さん、生徒にスマイル 西尾・東部中学校で講演会/愛知(1997.11.8(朝))。
- ・公開の訴え棄却 大河内君いじめ死の校長処分で名古屋地裁【名古屋】(1997.11.26(夕))。
- ・卒論(それぞれの旅立ち 清輝君いじめ事件から三年:2)【名古屋】(1997.11.28(朝))。
- ・いじめ苦に自殺の大河内清輝君、命日 自宅で法要 西尾市【名古屋】(1997.11.28(朝))。
- ・いじめなくせ、市民が語り合う 西尾でフォーラム【名古屋】(1997.11.30(朝))。
- ・岩倉の中1女子2人自殺 互いに影響?(ニュース三面鏡)【名古屋】(1998.1.18(朝))。

- ・「心の冒険」呼びかけ 子どもへいじめ死の本(1998.1.26(朝))。
- ・大河内清輝君の父親、3年振り返る1日に名古屋で講演会/愛知(1998.1.27(朝))。
- ・いじめ、「親身に考えて」母親訴える 生徒感想文「ひとごと」/茨城(1998.6.13(朝))。
- ・文書非公開、名古屋高裁も支持 大河内君公文書訴訟【名古屋】(1998.9.22(夕))。
- ・いじめ撲滅遺志脈々と大河内君自殺から5年目の命日【名古屋】(1998.11.28(朝))。
- ・いじめ、愛知1位 暴力、三重が5位 いじめ・暴力調査【名古屋】(1998.12.19(朝))。
- ・黄色いリボンで誓い いじめ問題取り組む上田市立六中生徒会/長野(1999.1.27(朝))。
- ・いじめ防止に手がかり 宮崎市東大宮中の活動結果まとまる/宮崎(1999.5.15(朝))。
- ・文書非公開の高裁判決確定 愛知のいじめ自殺訴訟(1999.6.16(朝))。
- ・いじめ・不登校を乗り越えて:1(まなびの場で)/神奈川(1999.11.13(朝))。
- ・山折哲雄いまを生きる 山折哲雄著(読む)【大阪】(1999.12.1(朝))。
- ・金の流れは? 中学生の巨額恐喝事件(声)【名古屋】(2000.4.29(朝))。
- ・講座・集い/愛知(2000.7.12(朝))。
- ・多発する少年事件、大人は積極関与を 清輝君事件の父が講演/愛知(2000.7.17(朝))。
- ・愛知、いじめ件数全国2位 文部省、生徒の問題行動調査【名古屋】(2000.8.12(朝))。
- ・大河内清輝君の父ら「事件生かして」七回忌法要【名古屋】(2000.11.27(朝))。
- ・懐かしく描く14歳 映画「リリイ・シュシュのすべて」【大阪】(2001.9.17(夕))。
- ・時代映すSOS 24時間、悩みに応答「いのちの電話」30年(2001.11.8(朝))。
- ・いじめなくせ、支援の輪 控訴審へ富山市で13日集会/富山(2001.12.7(朝))。
- ・いじめ撲滅へ100人 自殺した岩脇さん両親の控訴審支援/富山(2001.12.15(朝))。
- ・坂本奈美さん:上 母の言葉で我に(ぼくらの途中:5)/栃木(2002.1.7(朝))。
- ・いじめのない学校誓う 大河内君事件10年、後輩が焼香【名古屋】(2004.11.27(夕))。
- ・(ポートレート) 染川まどかさん 子らとの約束、守り続けたい/愛媛県(2006.1.12(朝))。
- ・「いじめ」ふたする大人のエゴ 滝川・大河内君自殺事件、父・祥晴さんインタビュー(2006.10.15(朝))。
- ・いじめ直視せず 学校・教委、説明翻す 小中学生の自殺相次ぐ(2006.10.18(朝))。
- ・児童生徒の「いじめ隠すな」対策、事例発表も 文科省・教委が緊急会議(2006.10.20(朝))。
- ・福岡県教委、いじめ把握の不備改善へ「先進県」参考に【西部】(2006.10.22(朝))。
- ・「いじめ」一転認めず 謝罪の翌日、学校「未確認」岐阜・中2女子自殺【名古屋】(2006.10.30(朝))。
- ・「いじめで自殺、連鎖の可能性」県教委、呼びかけ/愛知県(2006.11.1(朝))。
- ・(いじめをなくせ)「兆候見逃さず、即応を」岐阜・瑞浪中2自殺【名古屋】(2006.11.4(朝))。
- ・教育基本法改正、あす反対の集い 大阪城公園/大阪府(2006.11.10(朝))。
- ・(いじめをなくせ)子の告白、苦悩・感謝「まず学校」から親も解放【名古屋】(2006.11.10(朝))。
- ・進まぬ調査 アンケート・報告、先送り 筑前の中2自殺から1カ月【西部】(2006.11.11(朝))。
- ・いじめの悩み、聞くよ 自殺防止へ24時間 大河内君父ら、電話相談ネット【名古屋】(2006.11.16(朝))。
- ・いじめ防止、在校生動く 生徒亡くした現場(2006.11.19(朝))。

- ・いじめ苦に自殺、大河内君13回忌 西尾、同級生ら訪問【名古屋】(2006.11.28(朝))。
- ・いじめ自ら考える授業 遺書使い、校長取り組む 東京・杉並区の和田中(2006.12.3(朝))。
- ・いじめ体験、集会で語ろう 名古屋で10日/愛知県(2006.12.7(朝))。
- ・(時時刻刻)いじめ調査、また見直し6件の自殺「理由の一つ」(2007.1.20(朝))。
- ・いじめ調査、「声」重視 文科省見直し、早期発見促す(2007.1.20(朝))。
- ・大河内君の父、就任へ 愛知・西尾市「いじめ相談員」【名古屋】(2007.2.16(朝))。
- ・いじめ対策手引書、改訂しHPで紹介 県教委、保護者ら向けに/愛知県(2007.3.17(朝))。
- ・「いじめ」事実隠さないで 神戸で3日、遺族らシンポジウム【大阪】(2007.6.1(夕))。
- ・事実究明に第三者を 独立機関設置、要望へ いじめ自殺の遺族ら神戸でシンポ/兵庫県(2007.6.4(朝))。
- ・HP閲覧者も金要求 生徒の実名を公開 神戸高3自殺【名古屋】(2007.9.21(朝))。
- ・(お金が足りない 予算の現場) 生徒ケア、心理士奔走 全192中学網羅/岐阜県(2008.3.5(朝))。
- ・(きょういく特報部2010) いじめ、傍観しない生徒が防止活動・専従の教員など(2010.6.27(朝))。
- ・いじめ自殺、向き合って18年 愛知・大河内君が通った中学の生徒取り組み【大阪】(2012.7.31(朝))。
- ・(記者有論) いじめ 命をつなぐ備えを考えよう 宮坂麻子(2012.8.7(朝))。
- ・いじめ見過ごさない 大河内清輝君が通った中学校は今 自主活動「ハートコンタクト」(2012.8.7(朝))。
- ・(インタビュー) 話して、いじめのこと いじめが原因で息子を亡くした大河内祥晴さん(2012.8.8(朝))。
- ・いじめ、図書館でも考えて 岡崎、本70冊やDVD展示/愛知県(2012.8.18(朝))。
- ・「いじめは人権問題」人権擁護委研修で小林・鳥大准教授/鳥取県(2012.11.11(朝))。
- ・(NIPPON 映画の旅人)「Love Letter」時空超え、届いた「手紙」(2013.10.5(朝))。
- ・(声なき人々の側で ルポライター鎌田慧の軌跡:30) いじめ自殺/青森県(2014.11.12(朝))。
- ・いじめ、子に迷わせないで 大河内君事件から20年、父・祥晴さんに聞く【名古屋】(2014.12.27(朝))。
- ・いじめ自殺、考え続ける 大河内君の母校、命日前に集会【名古屋】(2015.11.18(朝))。
- ・(語る 人生の贈りもの) 鎌田慧:12 冤罪、個人を犠牲にする構造は(2018.6.13(朝))。
- ・教えて、あなたの平成/東海・共通(2019.1.1(朝))。

【参考文献】

- 片平紀子・藤平敦・宮古紀宏『日米比較を通して考えるこれからの生活指導』(学事出版、2021年)
- 北澤毅、間山広朗編著『囚われのいじめ問題—未完の天津市中学生自殺事件』(岩波書店、2021年)
- 小林剛『いじめを克服する 教師への期待』(有斐閣新書、1985年)
- 新福悦郎『いじめ問題関係判決書の教材開発といじめ授業 構成要素を中心に』(専修大学出版局、2018年)

瀬田川聡『ためらわない警察連携が生徒を守る 被害生徒を生まない毅然とした生徒指導』
(学事出版、2015年)

中日新聞本社・社会部編『清輝君がのこしてくれたもの 愛知・西尾中2いじめ自殺事件を
考える』(海越出版社、1994年)

中島博行『いじめゼロ ある公立中学校が実現したいじめ撲滅』(朝日新聞出版、2009年)

謝辞 本論考について、使用した朝日新聞記事の整理を大学院生の佐藤香奈子さんが整理
してくれました。ありがとうございました。

Received : September, 27, 2023

Accepted : November, 1, 2023

